

すべての拉致被害者を すぐに返せ！

北朝鮮への全面制裁発動で日本の意思を示せ！

平成14年に金正日が拉致を認め5人の被害者を帰国させました。しかし、「死亡」、「未入国」と一方的に通告された横田めぐみさんらについては、偽の遺骨や偽の死亡診断書が出てきただけで、帰国はおろか今どこで何をさせられているのかさえ分かっていません。拉致の可能性のある特定失踪者は約500人いますが、北朝鮮はいまだに、「拉致したのは13人だけだ」と開き直り、大部分の被害者について、拉致したことさえ認めていません。多くの被害者と家族にとっては、再会はもちろん、ことばの一言も交わすことができない「生き地獄」が続いています。

被害者を返さざるをえなくするための制裁強化を

すべての拉致被害者の救出を実現するために何が必要でしょうか。端的に言って、金正日に、「被害者を全員返すという決断をしなければ、政権の存亡に関わるような不利益に直面する」ことを分からせることです。そのためには、日本独自の制裁を今まで以上に強化することです。また、わが国の外交力量を総動員して、国際社会に北朝鮮への圧力をかけ続けさせることです。さらに、「今も人質として抑留されているすべての日本人被害者の救出なしには国交正常化も経済支援もあり得ず、制裁を課し続ける」という方針は圧倒的多数の国民の支持を得ており、いくら政治工作を仕掛けてきても変わらないことを、金正日に分からせることです。

一部で議論されている、安易な制裁解除や話し合い優先論は北朝鮮に、「全員返さなくても日本は折れてくる」という間違ったメッセージを送ることになります。

そのために、われわれはこの間、「対話だけでは北朝鮮は誠意ある対応を行わない」、「北朝鮮への制裁を継続・強化すべきだ」と訴え続けてきました。このような世論を盛り上げ続けていくこと以外に、被害者全員救出の道はないのです。

平成20年8月の日朝合意で金正日政権は「調査やり直し」の見返りに、これまでのようにカネやコメなどでなく制裁の一部解除を求めてきました。そのことから制裁が効果を上げていることが分かります。今なすべきことは、モノ、カネ、ヒトの流れを止める全面制裁を発動し、日本の強い意思を示すことです。

様々な情報を総合すると、北朝鮮内部でも平成20年以降、「2002年（平成14年）のシナリオでは日本を騙しきれない」という判断が出てきている兆候があります。したがって、再度北朝鮮が日本に接近し、制裁解除と大規模支援を狙ってくる可能性があるのです。その際、政府が全員救出という方針を曲げることがないように厳しく監視するとともに、我々独自の情報収集活動を強化して北朝鮮を追い込む必要があります。

家族会・救う会は、拉致被害者救出運動に全力で取り組んでいます。皆様のご支援、ご理解をお願いいたします。

すべての拉致被害者救出を！

世界に広がる北朝鮮による拉致被害（救う会作成）

国 籍	被害者数	出 処
韓国人	82,959人 500人	韓国政府調査（朝鮮戦争中民間人拉致） 韓国政府調査（朝鮮戦争休戦後、帰国者を除く）
日本人	19人 約100人	日本政府認定（警察認定の渡辺秀子さんの子ども2人＝朝鮮籍を含む） 家族会、救う会推計
レバノン人	4人	1978年拉致され1979年までに救出されたうち1人は米兵の妻
タイ人	1人	米兵の妻
ルーマニア人	1人	米兵の妻
中国人(マカオ系)	2人	うち1人を韓国人拉致被害者崔銀姫が詳しく証言
マレーシア人	4人	崔銀姫が伝聞証言 1978年8月にシンガポールで同時に失踪した4人のマレーシア人女性の 内1人をジェンキンス氏が平壤で目撃
シンガポール人	1人	上記マレーシア人女性4人といっしょに失踪
フランス人	3人	上記レバノン人被害者が1978年に目撃 うち1人について崔銀姫と大韓機爆破テロ犯金賢姫の伝聞証言あり
イタリア人	3人	上記レバノン人被害者が1978年に目撃
オランダ人	2人	上記レバノン人被害者が1978年に目撃
ヨルダン人	1人	崔銀姫が目撃

※米国人ではないが、米国の永住権を持つ金東植牧師（夫人と子息は米国籍）も2000年1月に拉致された。

全世界で起きた北朝鮮による拉致事件は、1970年代後半に集中しています。

事件発生時期が明確なタイ人、レバノン人、中国人、マレーシア人、シンガポール人拉致は1978年に起きています。フランス人、イタリア人、オランダ人、ヨルダン人、ルーマニア人拉致も70年代後半になされたことは証言などから明らかです。日本人拉致も70年代後半に集中しています。韓国でも1977年から78年に海岸で5人の男子高校生が拉致される事件が連続して起きています。

元北朝鮮工作員の安明進氏は、「拉致は遅くとも1960年代からあったが、本格化するのは70年代中頃からだ。1974年後継者に選ばれた金正日は、資金、人材のすべてが優先的に回されている朝鮮労働党対南工作部門を掌握するために、75年にそれまでの工作活動を検閲し、その成果はゼロだったと批判した。そして、『工作員の現地人化教育を徹底して行え。そのために現地人を連れて来て教育にあたらせよ』という指示を出した。その指示により、日本人をはじめとして韓国人、アラブ人、中国人、ヨーロッパ人が組織的に拉致された。自分はこのことを金正日政治軍事大学で、金正日のおかげでいかに対南工作がうまくいくようになったかという例として学ばされた」と証言しています。北朝鮮の独裁者金正日こそが全世界で多くの人々を拉致した許しがたい国家テロの首謀者なのです。

外国人拉致に多数の証言

北朝鮮には4人の脱走米兵がいました。それぞれの妻となった人たちは、いずれも拉致された女性たちでした。タイ人のアノーチャーさん、レバノン人のシハームさん、ルーマニア人のドイナさん、そして日本人の曽我ひとみさんです。帰国した拉致被害者曽我ひとみさんとその夫ジェンキンスさんの証言で、これらの拉致が明らかになりました。アノーチャーさん、シハームさん、ドイナさんの家族は、国民大集会に参加して救出を訴えています。彼らの子どもたちも北朝鮮で自由を奪われたままです。

タイ人のアノーチャーさんと同時に、マカオでマカオ人（中国人）2名が拉致されています。北朝鮮に拉致され、その後逃げることに成功した崔銀姫さんは、マカオ人の孔さんと親しくつきあっていました。元北朝鮮工作員金賢姫さんは、孔さんから中国語を教わったと証言しています。また、シンガポールでは、シンガポール人1人とマレーシア人4人が一緒に拉致されています。マレーシア人の1人をジェンキンスさんが目撃したと証言しています。崔銀姫さんもマレーシア人拉致について聞いています。

レバノン人拉致被害者は、1979年に救出されましたが、その直後に、レバノン政府の聞き取り調査を受けています。彼女らがヨーロッパ人拉致について証言しています。彼女らはスパイ訓練施設に入れられました。そこには全部で28人の女性おり、フランス人3人、イタリア人3人、オランダ人2人、その他中東や西ヨーロッパからの女性たちが含まれていた、とのこと。従って、救う会調査の、12の拉致の可能性のある国の数はまだ増えるかもしれません。レバノン人4人のうち、シハームさんだけは妊娠していたため、救出後、北朝鮮に戻り、そのまま帰れなくなっています。崔銀姫さんは、「招待所の中だけを巡回する理髪師の男性」からフランス人拉致について聞いています。また、北朝鮮で拉致被害者である可能性が高いヨルダン人にも会ってるということです。金賢姫さんも、「拉致被害者を収容する施設に勤める世話係の女性」から、外国人拉致について聞いています。

白日のもとに曝される 金正日・朝鮮労働党 朝鮮総連・よど号 拉致犯罪実行犯

原図作成・解説 恵谷 治 ©EYA Osamu 2007 graphic by TUBE

金日成は朝鮮戦争中に50万人の韓国人を拉致する計画をたてたことから分かるように、朝鮮労働党は不足する人材を国外から拉致してくることを、当然のことのように考えていたようである。戦時中の拉致は人民軍偵察局が実行したが、戦後は、後に「3号庁舎」と呼ばれるようになる労働党の工作部が担当した。1975年から始まった金正日の大改革までは、拉致工作は「党連絡部」が主管していた。また、朝鮮総連を指導監督していたのも党連絡部であり、1970年に平壤に飛び込んで行った「よど号」の日本赤軍たちを引き受けたのも党連絡部だった。金正日による大改革後、「よど号」だけは金日成の指示通り党連絡部56課の管轄に置かれたものの、「党連絡部」は対南工作専門となり、韓国以外の工作は「党調査部」の管轄となった。そして、朝鮮総連は新設された「党統一戦線部」が担当することになった。1976年以前の対日工作による拉致は組織的なものではなく、朝鮮総連を巻き込んだ特殊な作戦だった。しかし、金正日はその危険性を指摘するなどして3号庁舎の実権を握り、1976年以後は、日本に潜伏している「党調査部」の工作員が日本人拉致を指揮し、実際の作業は工作船で派遣された「党作戦部」の戦闘員が実行するというシステムが確立された。一方で、無為徒食の「よど号」グループに「革命的義理」を果たさせるため、日本人拉致を実行させるとともに、朝鮮総連内部に「学習組」という秘密組織を結成した。そして、各部署の忠誠心競争を煽って、韓国や日本のみならず、諸外国からの拉致を遂行させたのである。

拉致年表(韓国人被害者は多数のため割愛)

敬称略

- 日本政府、警察認定被害者 19名
- 日本政府未認定の被害者(救う会認定) 7名
- 1000番台リスト特定失踪者(拉致被害者と推定) 71名
- 人名 拉致が明白な外国人被害者
- 安明進証言により推定

1963年5月12日(日)

石川県志賀町高浜沖

寺越昭二(36歳、漁師)死亡 ○

寺越外雄(24歳、漁師)死亡 ○

寺越武志(13歳、中学生) ○

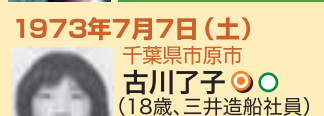


1970年8月8日(土)

福岡県北九州市八幡区

加藤久美子 ○ ● (22歳、事務員)

B女(35歳前後) 横田めぐみと一緒に行った女性教官

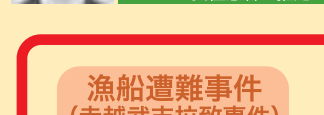


1973年7月7日(土)

千葉県市原市

古川了子 ○ ● (18歳、三井造船社員)

F女(30代半ば) 915病院で散歩していた女性患者と推定



1977年9月19日(月)

石川県能登半島宇出津

久米裕 ● (52歳、警備員)



1977年10月21日(金)

鳥取県米子市

松本京子 ● (29歳、会社員)



1977年11月15日(火)

新潟市水道町

横田めぐみ ● (13歳、中学1年生)



1978年6月6日(火)

出国、ウィーンから

田中実 ● (28歳、中華料理店店員)



1978年6月頃

宮崎県宮崎市の青島海岸

田口八重子 ● (22歳、飲食店店員)



2児拉致事件 1974年6月中旬 福井県小浜市の岡津海岸



渡辺秀子
(32歳)



高 敬美 ● 高 剛 ●
(6歳、子供) (3歳、子供)

父親の高大基は工作員で帰国しており、探しにきた母親の渡辺秀子は殺害と推定

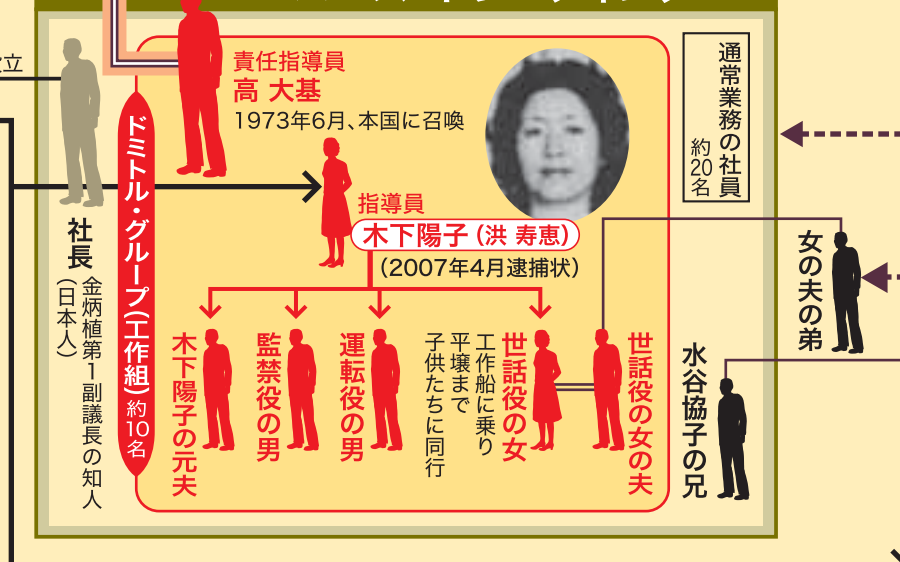
1975年以前の拉致実行犯たちの構成



1976年以降の拉致実行犯たちの構成



ユニバース・トレーディング



1978年7月2日(日) マカオから
アノーチャー・パンチョイ(タイ人、23歳、接客業 写真左)
孔礼馨(マカオ系中国人、20歳、宝石店店員 写真中)
蘇妙珍(マカオ系中国人、22歳、宝石店店員 写真右)



1978年8月 ベイルートから
サミア・カブラ(レバノン人、求人応募) 1979年8月脱出
ナイマ・カシル(レバノン人、求人応募) 1979年8月脱出
ハイファ・スカフ(レバノン人、求人応募) 1979年11月帰国
シハーム・シュライテフ(レバノン人、21歳、求人応募)
1979年11月帰国後再入国

1978年10月
ローマ
ドイナ・ブンベア
(ルーマニア人、28歳、芸術家)
1997年平壤で死亡

1978年7月7日(金)
福井県小浜市青井崎
地村保志(23歳、大工見習) ●
浜本富貴恵(23歳、衣料品店員) ●



1978年7月31日(月)
新潟県柏崎市の中央海岸
蓮池 薫(20歳、大学生) ●
奥土祐木子(22歳、化粧品販売員) ●



1978年8月12日(土)
鹿児島県日置郡の吹上浜
市川修一 ●
(23歳、電電公社職員)
増元るみ子 ●
(24歳、会社員)

1978年8月12日(土)
新潟県佐渡島
曾我ひとみ ●
(19歳、准看護婦)
曾我ミヨシ ●
(46歳、ひとみの母親)

1978年8月20日(日) シンガポールから
イェン・ヨケファン(マレーシア人、23歳)
ヤップ・メレン(マレーシア人、22歳)
シートー・タイティム(マレーシア人、19歳)
マーガレット・オン・グアットチャー(マレーシア人、19歳)
ダイアナ・ヌン・クム・イン(シンガポール人、24歳)



1979、80年
東京の山谷
小住健蔵 ●
(46歳、旋盤工)



1980年6月20日(金)
宮崎県青島海水浴場の北端
原 救晃 ●
(43歳、調理師)



1978年末
よど号グループの総会が開かれ、田宮高麿は「金日成教示に基づき、日本を金日成主義化するために、党創建準備委員会を設立し、その指導的中核となる日本人を発掘・獲得・育成しなければならない」と表明。その方針に基づいて、黒田佐喜子と福留貴美子の2人が、よど号グループのなかでは最初に日本人拉致のため海外に派遣された。続いて、よど号グループで最年少の柴田泰弘が男として初めて派遣され、八尾恵とともにスペインに向かう(80年1月まで滞在) (日本人旅行者をかどわかし北朝鮮に拉致する「マドリッド作戦」の開始)

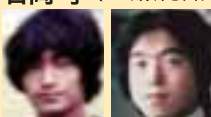
1980年4月13日
石岡亨がマルセイユからバルセロナに到着。その後、動物園で森順子と黒田佐喜子の2人に会い、記念撮影

1980年4月20日
森順子と黒田佐喜子がマドリッドのペンション「アディオ」に投宿

1980年4月下旬
石岡亨がバルセロナからマドリッドに到着。オスタル・ド・サンペドロに投宿し、松木薫と知り合う

1980年5月中旬
森順子と黒田佐喜子が石岡亨と松木薫とともにマドリッドからウィーンに向かう

松木 薫(26歳、語学留学生) ●
石岡 亨(22歳、元日大生) ●



1983年1月
田宮高麿が八尾恵と人女性の拉致を指令

1983年5月半
八尾恵はザグレブから学校「インターナシ」に接近

1983年6月25
八尾恵がロンドンから翌日に金ユーチョルから。ザグレブで安部公博と子拉致計画の詳細を

1983年7月15
コペンハーゲンの中恵から貿易会社の社商に扮したKYCを紹介

1983年7月16
コペンハーゲンの空にいたところを防諜。KYCは有本恵子をモ

有本恵子(23歳、記者)

1983年12月
ザグレブの北朝鮮領内、田宮高麿、小西隆順子、金子恵美子、黒民子、八尾恵が出席

日本赤軍
森順子・黒田佐喜子には、同時期に在りており拉致関与



菊村 豪

判明している拉致実行犯

横田めぐみ拉致事件



◎ 辛光洙
作戦責任者



◎ 丁順権
拉致実行者
(安明進証言)

田中実拉致事件



◎ 曹廷榮
作戦責任者
(張龍雲手記)
(日本在住)



◎ 韓竜大
拉致実行者
(張龍雲手記)
(日本在住)

タイ人とマカオ系中国人拉致事件



◎ 「フクダ」と名乗る工作員
作戦責任者

地村夫妻拉致事件

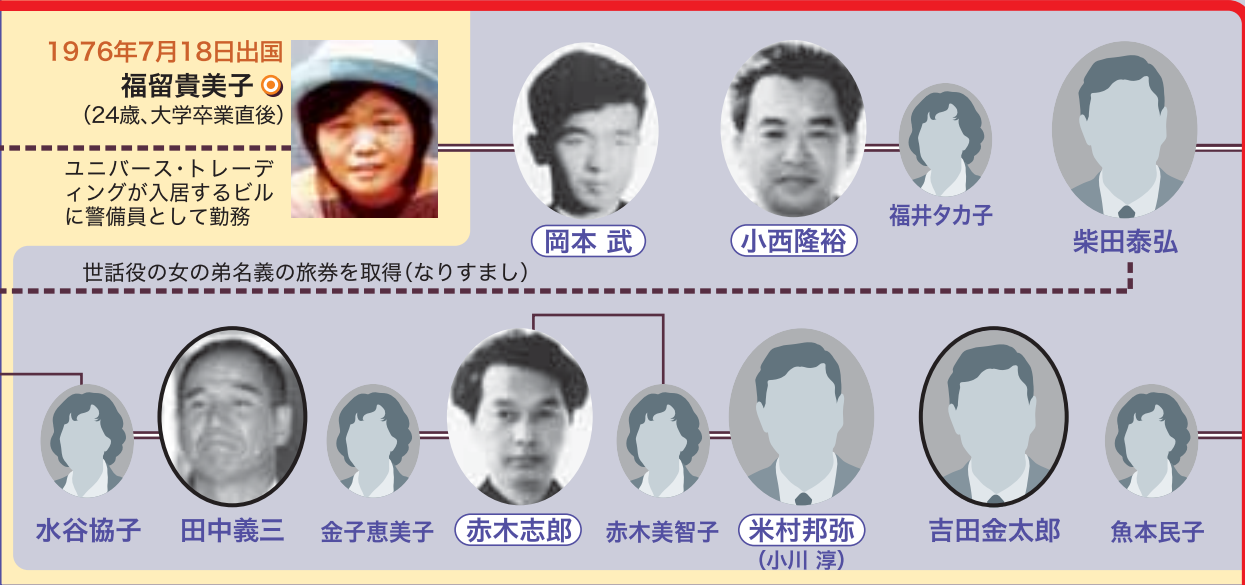


◎ 辛光洙
作戦責任者
(2006年2月逮捕状)

欧州留学生拉致事件



◎ 金ユーチョル
工作組指導員



有本恵子拉致



◎ 八尾 恵
実行犯



◎ 田宮高
拉致工作員



◎ 安部公博
現場指揮者
(2002年9月逮捕状)



◎ 若林

特定失踪者1000番台リスト(特定失踪者問題調査会が拉致疑いが濃厚と判断した人々)

福井タカ子に対し、若い日本

からロンドンに移動し、語学
ショナル・ハウス」で有本恵子

日
らコペンハーゲンに移動し、
(KYC)とベオグラードに向
部公博と中間総括し、有本恵
決定

日(金)
華料理店で、有本恵子は八尾
長を装った安部公博と貿易
介される

日(土)
港でKYCと有本恵子が一緒
機関が秘密撮影。
スクワ経由で北朝鮮に拉致

恵子
語学留学生)

不句
事館での「中間総括」が開か
隆裕、安部公博、田中義三、森
田佐喜子、福井タカ子、魚本

恵子の2人が投宿していた宿
に日本赤軍の菊村憂が宿泊し
の疑いが濃厚

マレーシア人 拉致事件



「フモト」「タナカ」と
乗る2人の工作員

石岡・松木拉致



森 順子

(2007年6月逮捕状)

責任者



黒田佐喜子

(2007年6月逮捕状)

盛亮

よど号グループ



蓮池夫妻拉致事件



A 金ナムジン

拉致工作組責任指導員
(2007年2月逮捕状)



B 韓クムニョン

工作組指導員
(2007年2月逮捕状)



C 崔スン Chol

作戦責任者
(2006年2月逮捕状)

曾我母娘拉致事件



G 金ミョンスク

作戦責任者
(2006年11月逮捕状)

西新井事件(小住健蔵拉致事件)



C 崔スン Chol

作戦責任者
(1985年3月逮捕状)



D 金錫斗(日本名・江川智)

現場協力者
逮捕後、懲役1年
(執行猶予4年)の判決

「うしろから3人の男」
という曾我証言は、
党作戦部の潜入戦
闘員BFGたちを
示している

宝海楼事件 (原教晃拉致事件)



G 辛光洙

作戦責任者
(2002年7月逮捕状)



D 金吉旭

現場協力者
(2006年4月逮捕状)



D 李吉炳

現場協力者



D 李三俊

現場協力者



※21年3月現在、特定失踪者計71名
※加藤久美子・古川了子両氏は「拉致年表」
に掲載
※氏名・失踪年・失踪地順、藤田進氏は同姓
同名が2名

地名は当時

人名 判明している拉致実行犯
(国際手配済み)
青字 よど号グループが関係した事件

写真協力: 時事通信社、海老原智治(在タイ)
「救う会」<http://www.sukuukai.jp>
「特定失踪者問題調査会」<http://www.chosa-kai.jp>
警察庁 <http://www.npa.go.jp>

めぐみさんたちは生きている!

「8人死亡」という嘘

平成14(2002)年9月17日、金正日が拉致を認め謝罪しましたが、そこで新たな2つの大きな嘘をついたのです。第1は、「めぐみさんたち8人は死亡した」、第2は、「拉致被害者は13人しかいない」です。家族会・救う会は、金正日のこの2つの大きな嘘を打ち破るために全力で闘ってきました。この間、北朝鮮が出した死亡の証拠は、全て捏造と判明し、日本政府も「被害者が生存している前提に立つ」と明言しています。めぐみさんたちは生きているのです。

◆なぜ生きていると言えるのか

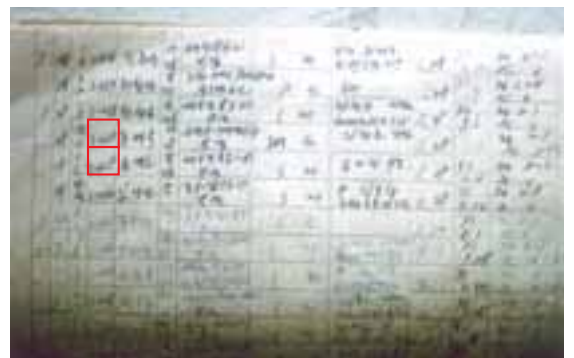
1. 遺骨、死亡診断書、死亡台帳、交通事故記録はすべて捏造

大きく分けて2つの根拠があります。まず、金正日政権が出してきた「8人死亡」の証拠13点全ては捏造でした。金正日政権こそが「死亡」を日本側に納得させたいにもかかわらず、「死亡」を証明する客観的証拠を1人分も出せませんでした。



北朝鮮は、「患者入退院台帳」の「入退院」の上に青字で線を引き、「死亡」として出してきた。

- 金正日政権が出してきた8人分の死亡診断書コピー8点、横田めぐみさんが死亡したという病院の死亡台帳1点については、2004年11月の日朝協議で北朝鮮側が捏造を認めた。
- 田口八重子さん、松木薫さんの安全部(警察)作成交通事故記録2点については、現場の写真が1枚もなく、被害者の名前すら書いておらず、死亡の根拠にならない。
- 横田めぐみさんおよび松木薫さんのものと称する火葬した遺骨については、帝京大学の最先端技術による遺骨鑑定で、めぐみさんとは別人のDNAが検出された。



同上の台帳は通し番号にもかかわらず上から4段目、横田めぐみさんの分だけは、次の行の男性と同じ番号3-239になっていた。めぐみさんの行を付け足し、捏造。

2. 生きていることを証明する数々の証言

次に、死亡とされた時期以降に生きていたことを証明する数々の証言があります。

- 1994年に「自殺した」とされためぐみさんは1995年に金正日の息子の家庭教師をしていたという確実な証言がある。(金正日一家の身の世話を担当する書記室幹部が韓国当局に証言)
- 市川さんは1979年に、増元さんは1981年に死亡したとされているが、亡命工作員・安明進氏は市川修一さんと増元み子さんを1992年頃まで何回も金正日政治軍事大学構内で目撃している。
- 田口八重子さんは1986年に死んだとされているが、安明進氏は、1991年に、金正日政治軍事大学の2人の教官から「金賢姫を教えた日本人教官は処罰されずに無事で教官を続けている」と聞いている。
- 救う会が入手した北朝鮮対外連絡部元指導員の証言によると、「横田さんは94年再婚、96年息子を出産。市川・増元さんは96年まで工作員の日本語教師。田口さんは96年以降文化部所属招待所で生活。石岡・有本さんは2001年平城市招待所で生活」という。

「拉致したのは13人だけ」という嘘

金正日政権は「拉致したのは13人だけ」と主張していますが、これも真っ赤な嘘です。

日本政府は、平成17(2005)年4月に田中実さんを、平成18(2006)年11月に松本京子さんを拉致被害者として追加認定しました。これにより合計17人が「拉致被害者・家族支援法」にもとづく拉致被害者と認定されています。この中で金正日が認めていないのが、曾我ミヨシさん、久米裕さん、田中実さん、松本京子さんの4人です。

曾我ミヨシさんのケース

昭和53(1978)年8月12日、曾我ひとみさんのお母さん曾我ミヨシさんも、ひとみさんと同様に袋に入れられ、小船に乗せられ工作母船に運ばれたはずである。複数の人を同時に拉致する場合、拉致した直後、不安な思いをさせて服従心を引き出すため、2人の被害者は互いに会わせず、孤独感を与える。同じ小船に乗せていてもお互いに気配を感じさせないようにし、母船に乗せるときも時差をおいて乗せ、船室も別にするという。

久米 裕さんのケース

久米裕さんは、東京都三鷹市役所の警備員をしており、昭和52(1977)年9月19日に拉致され、当時53歳。拉致現場付近で実行犯の1人が逮捕され、自供している。ところが北朝鮮は「久米は北朝鮮に入学していないことが判明した。当該年度の工作件数や工作計画等、住民登録台帳等を調査の上、似た人物がいた痕跡もなかった」(「拉致問題に関する現地事実調査結果(平成14年9月28日～10月1日)」)とでたらめな「情報」を日本政府調査団に提出している。日本政府は数々の証拠、証言を持っており、北朝鮮の「情報」は捏造である。

田中 実さんのケース

田中実さんは、神戸市でラーメン屋に勤務していた。店主・韓龍大は、北朝鮮の地下工作組織「洛東江」のメンバーで、韓が北朝鮮工作員の命令を受け、田中さんを海外旅行に誘い、昭和53(1978)年6月6日に成田からウィーンに向かった。以後消息がなく、ウィーンからモスクワ経由で平壤に拉致されたと思われる。「洛東江」の元地下工作員・張龍雲氏の証言で明らかに。元北朝鮮工作員・安明進氏は、田中さんの写真を見て、金正日政治軍事大学内で何回も目撃したと証言。

松本京子さんのケース

松本京子さんは、昭和52(1977)年10月21日午後8時頃、米子市の自宅から「編み物教室に行く」と言って出かけ、自宅近くで拉致された。松林で京子さんと二人の男が話しているのを目撃した近所の住民が声をかけると、男の一人が殴りかかり負傷させた。現場には京子さんのサンダルが片方残されていた。失踪当時、近くの海に北朝鮮工作船が来ていたという情報があった。

日本政府認定の17人以外に拉致被害者は多数いる

日本政府は平成14年10月、日朝国交正常化交渉で、政府認定以外の田中実さん、小住健蔵さん、松本京子さんの3人について、北朝鮮に調査を求めました。田中さんと松本京子さんは前述のとおり、その後認定されました。また、平成18年2月の日朝協議では、36人の「特定失踪者」などを取り上げました。

※ 小住健蔵さんは北海道出身で昭和36年頃から東京に出て働いていたが、昭和55年6月、朴と名乗っていた北朝鮮工作員崔スンチュルが小住さん名義で日本政府から旅券を取得した。つまり、この頃、小住さんが北朝鮮に拉致されたと考えられる。崔は小住さんになりすまして6回にわたり海外渡航を繰り返した。昭和60年に警察がなりすましに気づき崔を国際指名手配したが、海外に逃走された。警察は、崔が蓮池さん夫妻拉致犯人でもあったことを解明し、平成18年1月、国際指名手配した。

※ 警察庁は平成19年4月12日、在日朝鮮人と結婚した渡辺秀子さんの長女高敬美ちゃん、長男剛ちゃんの2人(朝鮮籍)を、北朝鮮による拉致被害者と認定した(3ページ図参照)。渡辺さん親子は、昭和48年11月頃東京都内で失跡。渡辺さんは殺害され、子ども二人は監禁後、翌年6月頃、福井県小浜市の海岸から北朝鮮に拉致されたとされる。

「よど号」犯リーダー田宮高麿は生前、「自分たちは合計20人程度を拉致した」と語っています。有本恵子さん等3人の他、これだけでもあと17人拉致されていることになります。元工作員・安明進氏は、金正日政治軍事大学で15人の日本人教官を目撃したと証言しています。その上、安明進氏は88年当時、金正日政治軍事大学の複数の教官からそこで働く日本人教官は約30人と聞いています。また、安明進氏によると拉致された韓国人約80人も教官として働かされていたといわれています。ジェンキンス・曾我ひとみさん夫妻の証言などによりレバノン人、タイ人、ルーマニア人、中国人を初めとして合計12カ国の拉致被害者がいたことも明らかになってきています。

※ 平成15年1月に救う会から分離発足した特定失踪者問題調査会(荒木和博代表)には、平成21年3月現在約500人の拉致の可能性が排除できない事例が集まっており、そのうち約70人を拉致の可能性濃厚としている。

家族会・救う会の救出運動

脱北した北朝鮮元工作員の証言で、横田めぐみさんの拉致が明らかになったことを契機として、各家族が実名を公表して救出運動を行なうことを決断し、平成9年（1997年）3月、家族会（北朝鮮による拉致被害者家族連絡会）が結成されました。その家族会を支援するために、各地で次々に支援組織「救う会（名称は地域ごとに少しずつ異なる）」が生まれ、平成10年、各地組織が一体となって「救う会」全国協議会（北朝鮮に拉致された日本人を救出するための全国協議会）として運動を行なってきました。また、平成9年4月、超党派の国会議員により「北朝鮮拉致疑惑日本人救援議員連盟」が、平成14年4月からは名称を変更し「北朝鮮に拉致された日本人を早期に救出するために行動する議員連盟」が結成されました。さらに、平成12年、全国の地方議員有志による地方議員の会が結成され、その後、各都道府県単位でも地方議員により拉致議連が結成されるようになりました。

平成14年（2002年）9月、金正日は拉致を認め謝罪しましたが、100人以上と想定される日本人拉致被害者の内、わずか5人とその家族だけを返すことで、拉致問題はすべて決着したと居直っています。

北朝鮮によるミサイル連射、核実験で、国連安全保障理事会は平成18年10月に北朝鮮に制裁決議を行うなど金正日政権は追い詰められています。拉致被害者救出運動は今まさに正念場です。皆様のさらなるご協力をお願いいたします。



実名を公表して救出運動を行なうことを決断し、家族会を結成
平成9年3月25日

■救う会

連絡先＝〒112-0013 東京都文京区音羽 1-17-11-905

Tel.03-3946-5780 Fax.03-3946-5784

info@sukuukai.jp <http://www.sukuukai.jp>

あなたにもできること

①署名のお願い

署名用紙は救う会のホームページ <http://www.sukuukai.jp/img/shomei2007.pdf> からダウンロードできます。その他、送付先をご連絡いただければ郵送させていただきます。

②首相にメール・葉書を

首相官邸のホームページの「ご意見募集」から、ご意見を送ることができます。

<http://www.kantei.go.jp/jp/forms/goiken.html>

葉書の場合は、〒100-8968 千代田区永田町 2-3-1 首相官邸

③メールニュースのご登録を

救う会のホームページより登録できます。

④カンパのお願い（家族会支援、自由北朝鮮放送支援のカンパは通信欄にその旨記載を）

■振込先 郵便振替口座 00100-4-14701「救う会」

みずほ銀行池袋支店（普）5620780 救う会事務局長平田隆太郎

⑤ブルーリボンバッジ申込み

1個500円。2個以上から。送料は10個まで80円、それ以上は無料。郵便局にある郵便振替用紙の通信欄に「バッジ〇〇個希望」と記入し、「ご依頼人」欄に郵便番号、住所、氏名、電話番号を明記して、代金を上記郵便振替口座に振り込んでお申込みください。バッジは宅急便でお届けしていますので表札等と同一のお名前でお申し込みください。通常1週間程度でお手許に届きます。

⑥このパンフの申込み

頒価50円。但し10部以上。送料無料。申込みは上記郵便振替口座利用。パンフ何部と書いて下さい。

自由北朝鮮放送（ソウル）

救う会では、脱北者が北朝鮮に向けて情報を送っているラジオを支援しつつ、日本人拉致被害者の所在情報提供者や保護してくれた人に褒賞金を出すことを放送しています。